令和七年度　入学試験

国　語

問題冊子

注意事項

試験開始の合図があるまで、この冊子を開けないこと。

1　この冊子の本文は11ページまである。印刷の不明な箇所、ページの脱落などがあった場合は申し出ること。

2　解答は、問題ごとに、答案用紙（別紙）の所定の欄に記入すること。

3　答案用紙は、**その一**、**その二**、の二枚である。それぞれに、受験番号と氏名を記入すること。

記入例

受験番号	
1	
2	
3	
4	
5	
氏名	大塚　茶織

4　答案用紙の解答欄上部の点線枠内には何も記入しないこと。

5　この問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。

1

次の文章を読んで、問㈠～㈦に答えよ。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

（宇野邦一『非有機的生』により、一部省略・改変して用いた。）

注

○マルセル・デュシャン―Marcel Duchamp（一八八七～一九六八）。フランスの芸術家。
○ランボー―アルチュール・ランボー Arthur Rimbaud（一八五四～一八九一）。フランスの詩人。
○ヴァン＝ゴッホ―ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ Vincent van Gogh（一八五三～一八九〇）。オランダの画家。
○カフカ―フランツ・カフカ Franz Kafka（一八八三～一九二四）。プラハ出身のドイツ語作家。
○エミリー・ディキンソン―Emily Dickinson（一八三〇～一八八六）。アメリカの詩人。
○マラルメ―ステファーヌ・マラルメ Stéphane Mallarmé（一八四二～一八九八）。フランスの詩人。
○プラグマティック―実際的な。現実に即した。

問㈠　傍線（1）「すでに芸術的表現とその〈受容〉の直線的、透明な関係を解体するアイロニー」とあるが、ここで言う「アイロニー」とはどういうことか説明せよ。

問㈡　傍線（2）「『芸術係数』は、問題を定式化し単純化するどころか、数々の係数からなる複雑な方程式に化けていくようなのだ」とあるが、「数々の係数からなる複雑な方程式に化けていく」とはどういうことか説明せよ。

問㈢　傍線（3）「『表現』という言葉の用法を誇大に拡張することになる」とあるが、これはどういうことか説明せよ。

問㈣　傍線（4）「それは僥倖とでも言うべきか。怪我の功名？」とあるが、なぜこのように言えるのか、本文全体の文脈を踏まえて説明せよ。

問㈤　傍線（5）「厳密には逆説でさえなく必然なのだ」とあるが、なぜ「必然」だと言えるのか説明せよ。

問㈥　本文全体を踏まえ、あなた自身は「表現」と「意図」の関係をどのように捉えるか、適切な事例を挙げて三百字程度で述べよ。

問㈦　傍線（a）～（e）の片仮名を漢字に直し、漢字は読みを平仮名で記せ。

2

次の文章を読んで以下の問(一)～(五)に答えよ。

小原に上人ありけり。無智なりけれども、道心ある僧にて、かかる憂き世にながらへてもよしなく覚えければ、三七日無言して、結願の日、頸を縊りて臨終せむと用意して、同朋の僧両三人相語らひて、道場に籠りゐぬ。小原の僧正も結縁せむとて、往生講行ひなんどし給ひけり。さる程に、京都中の道俗男女、聞き及ぶに随ひて、結縁せむとて集まり、「拝まむ」と言へば、出でて拝まれ(a)なんどしけり。

日数すでに満じて、行水なんど用意しけり。同朋の中に申しけるは、「今はこれほどになりて、別の義あるまじく候へども、人の心は定まりなき事なれば、もし妄執もとどまり、また思し召す事もあらば仰せられて、御心に残る所無くして、御臨終もあらむは然るべく候ふ。今は、無言よしなく候ふ」と言ふ時、この上人、げにとや思ひけむ(b)、申しけるは、「始め思ひ立ちたりし時は、心も勇猛なりき。ひと日ごろ、湯屋の房の焼けて、かの房主焼け死になんどせしを聞きし時は、今一日も疾く疾く臨終して、かかる憂きことも聞かじ、はやく死なむと思ひしが、(1)この程は心も緩くして、いそぎ死なばやとも覚えず」と言ふ時、年来の弟子の中に、おとなしかりける在家法師の、京に住まひけるが、この事によりて来たるあり。道場に入れられずして、少し嫉ましげなる気色にて、障子のきはに居寄りて、上人のかやうに言ふを聞きて、声高に申しけるは、「物の義なんど言ふは、定まらぬ時の事なり。これ程にののしり、披露して、時も日も定まりたる事を、(2)なま小ざかしき賢しらの出で来るこそ、返す返すもあるべからぬ(c)事なれ。魔の所為にこそ。疾く疾く御行水参らせて、急ぎ給へ。時延びなむず」とののしりければ、上人も物言ひさして、苦りて、心ならず行水し、房の前の榎に縄を掛けて、頸を縊りて死ぬ。人々拝み尊び、面々にその遺物をぞ形見に取りける。

さてその後、半年ばかりを経て、(3)僧正の悩み給ふ事ありけるが、例ならぬ気色に見え給ひければ、護身し、陀羅尼など唱へけるに、口走りて様々の事ども宣ひけり。かの頸縊りの上人の憑き奉りたりける。(4)「『あはれ、制止し給へかし、思ひ留まらむ』と思ひしに、さる御事なかりし、口惜しく候ふ」とぞ言ひける。まことに妄念執心は忘れがたく、捨てがたし。魔道に入りけるこそ詮無く覚ゆれ。

（『沙石集』により、一部改変して用いた。）

注

○三七日無言して―二十一日間、物を言わない行を修して。　○結願の日―修行が終わる日。
○同朋の僧―同じ寺の仲間の僧たち。　○結縁せむとて―往生の利益にあずかろうとして。
○行水―自死する前に身を清めるためのもの。　○妄執もとどまり―この世のことに未練が残り。
○今は、無言よしなく候ふ―今となれば、無言の行も必要ありますまい。　○湯屋の房―寺の浴室になっている僧房。
○在家法師―寺院を離れて一般の家庭生活を送っている僧。
○護身し、陀羅尼など唱へけるに―僧侶の身を守るための呪的儀礼をしていたときに。

問(一)　傍線(1)「この程は心も緩くして」とはどういうことか、説明せよ。
問(二)　傍線(2)「なま小ざかしき賢しら」とは何のことを言っているのか、説明せよ。
問(三)　傍線(3)「僧正の悩み給ふ事ありけるが、例ならぬ気色に見え給ひければ」を現代語訳せよ。
問(四)　傍線(4)「『あはれ、制止し給へかし、思ひ留まらむ』と思ひしに、さる御事なかりし、口惜しく候ふ」を、言葉を補いつつ現代語訳せよ。
問(五)　二重傍線(a)～(c)について、文法的に説明せよ。
(例)完了の助動詞「たり」の連用形

3

次の文章を読んで、問(一)〜(四)に答えよ。

趙ノ主父使ムリ李疵シヲシテ視ニ中山ノ可レ攻ムキヤ(1)不レヤ也。還リ報ジテ曰ク、「中山ハ可シレ伐ツ也。君不ニ亟伐一、将レ後ニ斉燕一。」主父曰ク、「何ノ故ニ可レ攻ムカト。」李疵ヘテ対ヘテ曰ク、「其ノ君好ミテ見ニ巌穴ガンケツ之士ヲ一、傾ケレ蓋ヲ与ニシレ車ヲ、以テ見ニ窮閭キユウリヨ隘アイ巷カウ之士ヲ一、以テレ十ヲ数ヘ、伉カウ礼レイシテ下ニ布衣之士ニ一、以テレ百ヲ数フ矣。」君曰ク、「以テ子ノ言ヲ論ゼバ、是レ賢君也。安クンゾ可ケンヤレ攻ムト。」疵曰ク、「不レ然ラ。夫レ好ミテ顕シテ巌穴之士ヲ一而朝セシメバレ之ヲ、則チ戦士ハ怠ラン於行陣ニ一。上尊ビ学者ヲ一、下朝セシメバ居ニ士ヲ一、則チ農夫ハ惰ラン於田ニ一。戦士怠レバ於行陣ニ一者、則チ兵弱シ也。農夫惰レバ於田ニ一者、則チ国貧シ也。兵弱ク於敵ニ一、国貧シクシテ於内ニ一、而不ルレ亡ビ者ハ未ダレ之ヲ有ラ也。伐ツコトレ之ヲ不ニ亦タ可ナラ乎ト。」主父曰ク、「善シト。」挙ゲテレ兵ヲ

而伐(チ)二中山(ヲ)一、遂(ニ)滅(ボセリ)也。

（『韓非子』により、一部改変して用いた。また設問の都合で送り仮名を省略した箇所がある。）

注

○趙主父―戦国時代、趙国の君主。　○李疵―趙主父の臣。　○中山―国名。　○亟―すみやか。

○斉燕―いずれも国名。　○巖穴之士―隠者。

○傾蓋与車―道に行き会った際、車を停めて、あるいは一車に同乗して語り合う。

○窮閭隘巷之士―貧しい村里や狭い路地に住む者。　○伉礼―対等の立場の礼をとる。　○布衣之士―無位無冠の者。

○朝―朝廷に出て君主に謁見する。出仕すること。　○行陣―戦陣。　○居士―官位についていない者。

問㈠　傍線（1）「不」、（2）「対」、（3）「然」の読みを記せ。

問㈡　傍線（ア）「君不亟伐、将後斉燕」を現代語訳せよ。

問㈢　傍線（イ）「以子言論、是賢君也。安可攻」を現代語訳せよ。

問㈣　傍線（ウ）「挙兵而伐中山、遂滅也」について、趙主父が中山を伐った理由を、右の文章全体を踏まえて説明せよ。